

# 郷土の会だより

発行責任者  
岡村昭則

## 専科第一期校友会第五回理事会開催！

(2月12日)

出席者 田中、北氏、相場、吉野、小林、安藤、松野、岡村、大阿久、有村、中島の十一名  
本日は、二十二年役員予定者も出席

### 伊奈連・県連関係報告

一、伊奈連・県連協の平成二十二年事業計画(第一次案)の説明あり。また、専科一期校友会が担当した二十二年度の合同研修会とボランティア活動発表会の引継ぎが二月二十四日に行われることも報告された。

伊奈連協 九月のグラウンドゴルフ大会

十月のボランティア活動発表会

十一月の親睦タンスパーティー

県連協 七月の公開学習

九月の高齢者創作展、県連協会報発行

十月の社交ダンスの集い、グラウンドゴルフ交歓大会

十一月のいきいきフェスティバル

十二月の公開学習

二、伊奈連協役員・事業担当中期計画(案)について説明あり。二十二年度に専科一期が担当する事業は次のとおり。

十月のボランティア活動発表会

十一月のいきいきフェスティバル

三、二十三年度イナ・ヴォイス運営方針について

イナ・ヴォイスとは、**在学中から一体なんぞや**という疑問を持ちながら、学園から委嘱状を受けて、協力要請のあった活動発表などお手伝いしてきたのが実態です。今回、イナ・ヴォイスの役割と機能が提示されましたので、会員に「伊奈ボランティアニュース」を配布します。お読みになってご理解して下さい。

肝心なことは、このイナ・ヴォイス(伊奈学園卒業生が立ち上げたボランティア活動のコーディネーターを事業主体とする団体)を伊奈学園・校友会・伊奈連協が連携して活動を支援していくことです。

専科一期校友会関係

一、平成二十三年度役員の一覧表が配布され、説明がなされた。

次年度はまちづくりコースから会長に就任することに決まっている。監事は田中会長と小金沢副会長就任予定。

二、来年度の会費は千円に値下げすることで予算案や事業案を新規役員に作成してもらうことになった。

三、総会に向けた二十二年事業報告は会長が作成、会計報告は会計が作成、規約改正については総務部長が作成すること。それらの資料を揃えて三月二日理事会を開き最終調整

をして三月三十日の総会に望むことを確認した。四、専科一期校友会会員が二年制に1/3が進学していることから、二十四年度校友会会員の減少を踏まえて、会費の問題、クラブ活動のあり方、校友会脱退者の取り扱い等について様々な意見が出された。大方は同窓会として「おおらかな方向」で進んだ方がいいのではないかと意見が多く、来年度に検討してもらうこととして閉会した。

## 伊奈 ボランティア ニュース

発行元：伊奈ボランティア活動情報センター 平成23年3月 第24号

### 平成23年度 イナ・ヴォイス運営方針

イナ・ヴォイス代表 中山延雄

「絶やすなボランティアの火を」  
「ボランティアの火を永遠に」  
「継続はいきがいなり」

昨年から続く世界各地の異常気象や自然災害のニュースに加えて、グローバルな政治・経済の動向等を見ますと、今年の景況もあまり明るくはないと思えます。

しかし今年のイナ・ヴォイスは皆様のご協力・ご支援を賜りながら、卯年に因んでホップ、ステップ、ジャンプと爽快に明るく飛び跳ねる年にしたいと考えております。

以下に、平成23年度の運営方針を申し上げます。



## 伊奈いきがいネット クラブ第九回編集委員会(2月16日開催)

今年度第8回編集委員会が伊奈学園で午後5時から開かれました。伊奈いきがいネットクラブに対して、左記の専科一期校友会ホームページの現状と課題について、共通認識をもってもらうため提出しました。

### 伊奈いきがいネットクラブへ

#### 専科一期ホームページ委員 岡村昭則

専科一期ホームページについて一年間を振り返りますと、諸々の課題がありますので検討していただきたく提出いたします。

H21年度より伊奈学園に専科一年制コースが設置されたことで、これまでの校友会HPの構成にも大きな影響を及ぼしている。これまでは2年間という時間の中で校友会HP移行を準備するという余裕があった。しかし、専科は卒業すると即で校友会HPへの移行であることから、HPに掲載する技術取得が2年制と違って難しい状況にある。

それに加えて、専科校友会会員の1/3が2年制に進学していることから、24年度に専科校友会に残る会員の数が未知数であり、その中にHP委員も3名いるので6名で活動している状況で取材等も停滞している状況もある。

### 課題1、HP委員の位置づけがはっきりしていない

在校生のときは、氏家所長から「伊奈いきがいネットクラブ」において活躍されることを期待しますという委嘱状が出されたが卒業後、何もなし。

伊奈ネットクラブの会員は、サーバーへのアクセス権を付与されたものに対してのみ委嘱するとなっている。それならばHPの位置づけはなんなのか。

### 課題2、HP作成技術取得について

9人のうち3名が進学して残りの6名で動いている。その内本格的にHPを開設し稼働しているのは、自分のお店のHP開設者を除いて2名(岡村田中)のみ。

これまでの講習会は2年制を対象に考えられているので、時間的に余裕を持って行われてきた。専科は卒業、即、校友会HP移行のため、これまでのような講習会では技術修得は難しい。

そのため、8月講習会は短期間で技術修得する講習会として位置づけ、ワードとコピーする技術があれば、HPが立上げられることを強調して次のようなことを提案したい。

昨年の夏の講習会で専科二期と22期にしても既にHP立上げ経験者がいたことで早く立ち上がったとも言える。しかし、この人たちの基準に考えれば従来の講習会になってしまつので、如何に簡単にHP立上げられ楽しいかと云つ講習会にする必要がある。

- ・ 事前に簡単な校友会HPの文書と写真を用意する(校友会、科活動、クラブ活動の3P)
- ・ 一般の文書と写真をWebに載せるためには一定の様式(テンプレート)色々あるが二種に限定する(に書き換えすることを説明する)
- ・ 手順書(インデックス+トップページを作り、

各ページを作り、それらをナビゲーションに貼り付ける)に基づいてHP立上げまで行つ。

・ 文書と写真の貼り付けは、テンプレートに書いた貼り付けたりする時に講師が教えていく。

・ 立上げれば、みんな家に戻っても、その手順書を見れば、自分のHPに活用できるので楽しくなる。

・ 夏講習会で使った手順書に基づいて、12月講習会まで自分のHPを作ってくる宿題を出して、わからない事をメモにしておくようにする。

・ 夏講習会ではマイクロシニアポイントの難しい話はない。それらは12月講習会で講義した方が理解しやすい。

### 課題3、原稿取材について

卒業後は在学中とはことなり、会員が集まる機会も少なくなり、一年間だけで卒業ということ、会員間の交流密度度も2年生とは違って薄く、HP委員が中心にやっていたが、HPに掲載する原稿の収集に各コースとも苦労している現状があり、分析すると次のようなことになる。会員のHPに対する理解が薄いこと

・ 専科HPを見てもらつた対策として次のことを実施、11月より毎月HP掲載情報を発行してメンバーリストで流している。

・ まちづくりコースは、班別に原稿を書くシステムを作り実行に移した。第一回目の原稿を1月に掲載、健康むじくりも同様なことを計画している。

・ 校友会もHP委員におんぶに抱っここの状況にあること、23年度より理事会報告は校友会に作成してもらう。

、県連協 伊奈連協の事業については 参加者を中心に取材担当を決める。

原稿収集の省略

県連協 伊奈連協の事業の「お知らせ」と「報告」は取材せずに学園HPなりにリンクするだけにする。但し、専科校友会が参加した場合の記事は、専科校友会HPに掲載する。

**課題4、学園トップページレイアウト変更も必要**

HPの役目を考える

在校生及び校友会等の事業の「お知らせ」を最初にレイアウトすることが大事である。現状では掲示板とお知らせが逆になっている。終わったことよりも、これからの行事案内が優先されるべきだ。そして「報告」も読まれるようにレイアウトを考える必要あり。15期HPがよい参考になる。

専科として県連協、伊奈連協の事業については「お知らせ」と「報告」へリンクするだけで済ませたい。

**課題5、専科校友会HPの構築について**

二年制の伊奈学園に新たに一年制専科を設けたことで学園HPにも諸々の課題を抱えたと云える。専科校友会HPの骨組をマンション形式で行う鈴木さんの構想を実現させるべく1月7日の専科HP委員会で、たたき台を作成して検討に入った。専科校友会トップページを新たに作成するには伊奈ネットクラブの調整が必要であることから、その結果を待つことになった。トップページには専科の設置目的等を説明する必要から氏家所長に書いてもらった。

専科校友会として、一期二期三期と骨組を作るにしても、伊奈学園HP全体の体制整備や掲載内容の整備も必要があることを確認した。というのは重複して原稿は掲載せず、各期独自の原稿を掲載することに専念すれば、専科HP委員の負担も少なくなる。各期のHPも校友会活動の一環であることから、読んでもらうことが最優先されるべきであり、それを補完する観点からメンバーリングリストの活用も図られるべきだと思つ。

**編集委員会のコメント**

これまでのHP体制が二年生課程を対象に組立てられており、そこへ一年生の専科が加わったことで、新たな問題点が出てきたことを、私の説明で編集委員会も共通認識をもつていただいた。これから問題点の解決に向けて取組んでいただけることになった。

**課題1**は、卒業後も学園から委嘱状を出してもらつ、それでも根拠がはっきりしない。

**課題2**は、一年制で技術修得の難しさも理解して頂き八月講習会へ向けて検討したいとのこと。

**課題3**は、専科の方向性を理解していただいた。各期ともメンバーリングリストの活用をしていることが報告された。

**課題4**は、来年度から鈴木進さんが編集長になるので新たな視点で考えていただけるものと期待したい。

**課題5**は、専科校友会は二年制課程とは別立てのHP組立てがよいのではという意見が圧倒的であった。

私の水墨画を第16回墨彩画展に出品しました！

松野 吉光

専科時代に、めぐり合つて以来、一年十ヶ月、水墨画に親しみ、はまりこんでおりますが、腕の方はなかなか上達いたしません。それでも、続けられれば何とかなるの思いで、これからも描いていこうと思つていきます。出品作品と近作の2習作を、ご披露します。

出品作品「富士に梅」



習作「冬景色」



習作「葡萄」



**第6回専科一期ホームページ委員会  
が開かれました(2月18日開催)**

専科一期郷土の会ホームページ委員会出席者

岡村昭則 田中 忠

今回は専科二期生が第九回伊奈ネット編集委員会に二期生が参加していなかったため、その時の報告報告を兼ねて、ネットクラブの役員がかわること、専科ホームページ作成に関する課題を私の方から提案し説明してある程度の共通認識をもっていたいただいたことを中心に報告した。

**課題1、HP委員の位置づけがはっきりしていない**

回答は、卒業後も学園から委嘱状を出してもらおうようにすることのだが、それでも根拠がはっきりしない。それで**専科一期は、校友会規約から一つの方向を見た**。イナネットクラブの規約は昨年できたばかりであり、それを読んでも卒業後のHP委員への委嘱状も学園で出すようになっていて、それはサーバーを伊奈学園で運営していたときのことを想定しているものと思われる。

昨年4月、学園から離れてイナネットクラブでサーバーを運営していくことになったのだから、卒業後のHP委員に学園から委嘱状を出すのもおかしい。

そこで専科一期HP委員会は、校友会の規約で、毎年、各コースからホームページ委員もイナヴォイス委員も選出されて総会の承認を得ることになっている。卒業後は校友会で選ぶので、委嘱状を出すとしたら校友会ということになる。専科としてはそこをベースにして申し合わせ事項の中で、HP委員は伊奈いきがいネットクラブの

活動に参加すること、イナヴォイス委員はイナヴォイスの活動に参加すること等を決めればよいのではと云う方向で検討している。専科一期校友会HP委員のうち正副委員長がイナ・ネットクラブのサーバーアクセス委員として、イナネットクラブの会合に出席する資格があるという形がいいのではと考えている。

3月2日に理事会があるので、田中会長から申し合わせ事項の素案を提出して了解をいただき総会で承認してもらえば課題1は専科一期として解決となる。

**課題2、HP作成技術取得について**

これについては、課題に取上げた以上、私も専科一期としても協力するために、みんなが修得しやすい手順書を作り、伊奈ネットクラブに参考に送ることにした。一月末までに完成し報告した

**課題3、原稿取材について**

一期生の一年間を振り返って、原稿収集には相当ロスがあったので、それを繰り返さないように二期生にも強調して話すとともにメーリングの活用を強調した。

**課題4、学園トップページレイアウト変更も必要**

来年度から鈴木進さんが編集長になるので新たな視点で考えていただけるものと期待したいと報告して終わった。

**課題5、専科校友会HPの構築について**

専科校友会のHPは、編集委員会でも一年生と別立て行くことを理解していただいている。専科の特徴をトップページに綴ることにして、案を氏家所長に提示して了解を取り付けた。

「いきがい大学伊奈学園専科コースは、平成21年度から開設された一年制課程コースで、それまでの一年制課程よりも、専門別に特化して、より実践的な学習につとめ社会の変化に対応できる能力を身につけ、社会参加による生きがいを高め、卒業後は地域社会のリーダーとして、活動することを目的として設置されました。

私たちは専科コース在学中には、学習、自治会活動、クラブ活動及びイナ・ヴォイスやネットクラブ活動等とおして多くのことを学びました。卒業後は校友会を立上げ、伊奈学園校友会連絡協議会へ参加すると共に、卒業生の多くは専科コースで学んだことを実践すべく、様々な分野で地域活動に参加し活動しています。校友会としては、専科コースのHPの充実を図りながら、高齢化社会の中で活動する卒業生の姿をリポートし、会員のみなさんへ情報発信してゆきますのでご協力を宜しくお願いします。」

